

自宅が資格学校（1級建築士）

【会員限定対応】

1. 自宅を資格学校にするための方法

自宅に居ながら「資格学校」に通学したような状況をHPで提供する（1級建築士の学科と製図のみ）
そのため、2018年にHP容量を5倍とし、2018年は(1)と(2)を公開し、2019年以降に(3)を公開する予定である。

- (1) 製図: 予測課題の添削とランク評価
- (2) 学科: 模擬試験の公開と正解分析
- (3) ライブ講座: パワーポイント音声付き解説による各項目別のライブ講座をHP上で公開する予定

(1) 製図: 予測課題の添削とランク評価

- ・自宅が資格学校の製図講座は、各自が作図&記述した予測課題について「添削」をするものである。
- ・具体的には次の通り。

- ① HP上で「予測課題(3パターン)」を公開する。
- ② その予測課題を各自が自宅^で6時間半かけて作図&記述する。
- ③ その内容を、研究会へメール添付する。
- ④ その内容を、研究会が添削(ランク評価)してメール返信する。

- ・研究会による添削やランク評価は、下記のようなものとなる(資格学校との違い等)。
- ・資格学校では、毎週予測課題について作図し、その解答図とともに、自分の図面について添削を受ける。
- ・多くの受験者が同時に学習しているので、作図&記述の終了後の添削は、概ね1人当たり10分~30分程度である。
- ・それに比較して、研究会の添削は、1時間以上かけて詳細にチェックし、赤字での指摘修正をする(図1、図2参照)。
- ・また、その図面が、ランクでどの評価となるかの採点一覧表を示す(図3参照)。
- ・本内容は、個人対応になりチェックに時間を要するので、1予測課題の対応費3,000円での対応とした。
- ・なおHP内で、予測課題の解答例を掲載するので、この個人対応を受けなくても会員は、無料で製図を学習することもできる。
- ・予測課題は、毎年3案提示するので、この制度は、3回利用できる。HP掲載の解答図を見る前に、自分の作図したものが、どの程度(ランク評価)のレベルに達しているのかを把握することで、自宅に居ながら資格学校と同等以上のサービスを受けられるものである。

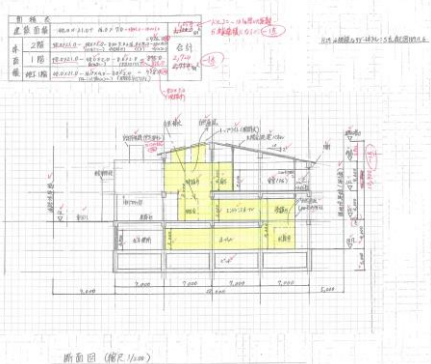


図1 図面の添削例

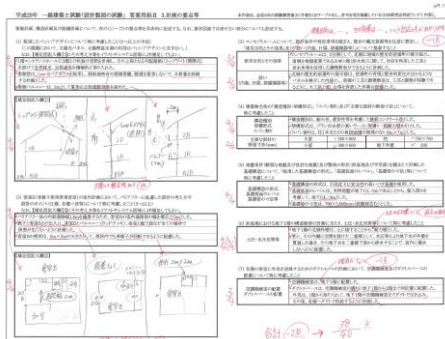


図2 記述の添削例

図3 採点一覧表

(2) 学科: 模擬試験の公開と正解分析

- ・自宅が資格学校の学科講座は、HP上に「模擬試験」をアップして、その結果分析表(グラフ)により各自の実力が把握できるものである。
- ・これを自宅でも再現するには、次のことを実施する(現在検討中で2018年5月頃から開始予定)。
- ① HP上で「模擬試験125問」を公開し、各自が自宅^で時間を決めて解答する(I II 2時間、III 1時間45分、IV V 2時間45分)。
- ② その内容を、研究会へメール添付する。
- ③ その内容を、こちらで採点し、分析表(グラフ)により欠点が見えるようにしてメール返信する。

- ・模擬試験は、難易度別(容易・難解)の問題を分散させて出題し分析する。
- ・その結果、分析表から各自の学科別実力、および難易度別の理解度などが分かる。
- ・資格学校の模擬試験は、過去問の難易度分散試験であり、模擬100点超えが合格ラインの目安として推定する。
- ・従って、当研究会の模擬試験も同様に、100点超えを一つの目安にできるように問題とする(各自も合格の目安が分かる)。
- ・本内容は、個別対等になり分析一覧表作成に時間を要することから、1模擬試験の対応費2,000円とした。
- ・なお、HPで模擬試験125問の解答も掲載するので、この個人対応を受けなくても会員は、無料で模擬試験の学習ができる。

(3) 学科&製図: 音声付き解説

- ・資格学校の最大のメリットは、ライブ講座である(最近では、講座内容のDVD視聴もある)。
- ・これを自宅でも再現するには、HPで見れるようにすれば良い。
- ・この取り組みは、2019年から開始できるように進める。
- ・第一ステップとして各項目別の「パワーポイントによる音声付き解説」から開始する予定。
- ・最終的には映像によるライブ講座が見れるHPとしたい。
- ・ただし、これまでのサービスを組み込むには、かなりの労力を要するので、少なくとも実行委員1名は、サラリーマンをやめて専属になる必要があり、その点も含めより良いHPになるよう検討していく。
- ・なお、2019年から開始する「音声付き解説」は、会員対象となるが無料での講座とする予定である。